

第3回「協同農業普及事業に 関する意見を聴く会」資料

一般社団法人
全国肥料商連合会

平成26年9月26日

(社)全国肥料商連合会

【名称】 **一般社団法人 全国肥料商連合会**

(略称)全肥商連 (事務所)東京都文京区本郷3丁目3番1号

【目的】 全国肥料商業者の**団結強化**と肥料流通における
信頼と責任の連鎖を図りもって肥料並びに**農業界、**
地域活性化の健全な発展に協力し、**食の安心安全**
をはじめ**社会的要請に努める**ことを目的とする

【設立】 平成23年1月19日(法人化)

本会は昭和30年任意団体として設立した、全国肥料商連合会の
事業を継承する(設立時6,000会員の組織)

【会員】 社員会員52 賛助会員26 準会員13 (H26.9.5現在)

(注) 県部会員総数1,728事業者 (H26.9.5現在)

【役員】 理事14名 監事2名 会長 上杉登 (H26.9.5現在)

【事業】 平成26年度(H26.8.1～H27.7.31) 予算 54,910千円

【総会】 議決権は社員会員1名に1個 決議は1/2以上の出席・過半数で行う

【理事】 15名以内 理事会は毎年2回開催する 臨時理事会は都度開催

一般社団法人 全国肥料商連合会

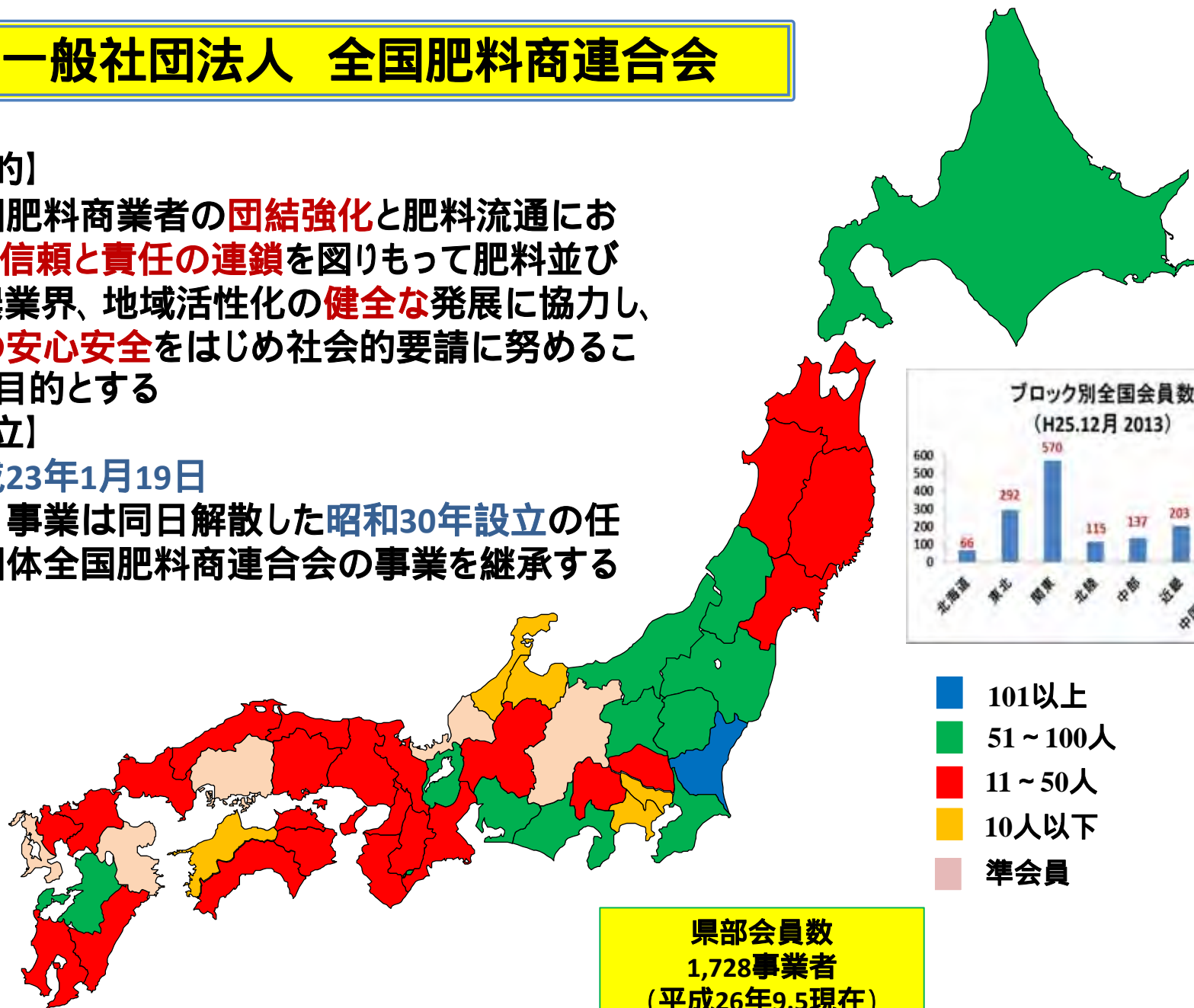
【目的】

全国肥料事業者の**団結強化**と肥料流通における**信頼と責任の連鎖**を図りもって肥料並びに農業界、地域活性化の**健全な**発展に協力し、**食の安心安全**をはじめ社会的要請に努めることを目的とする

【設立】

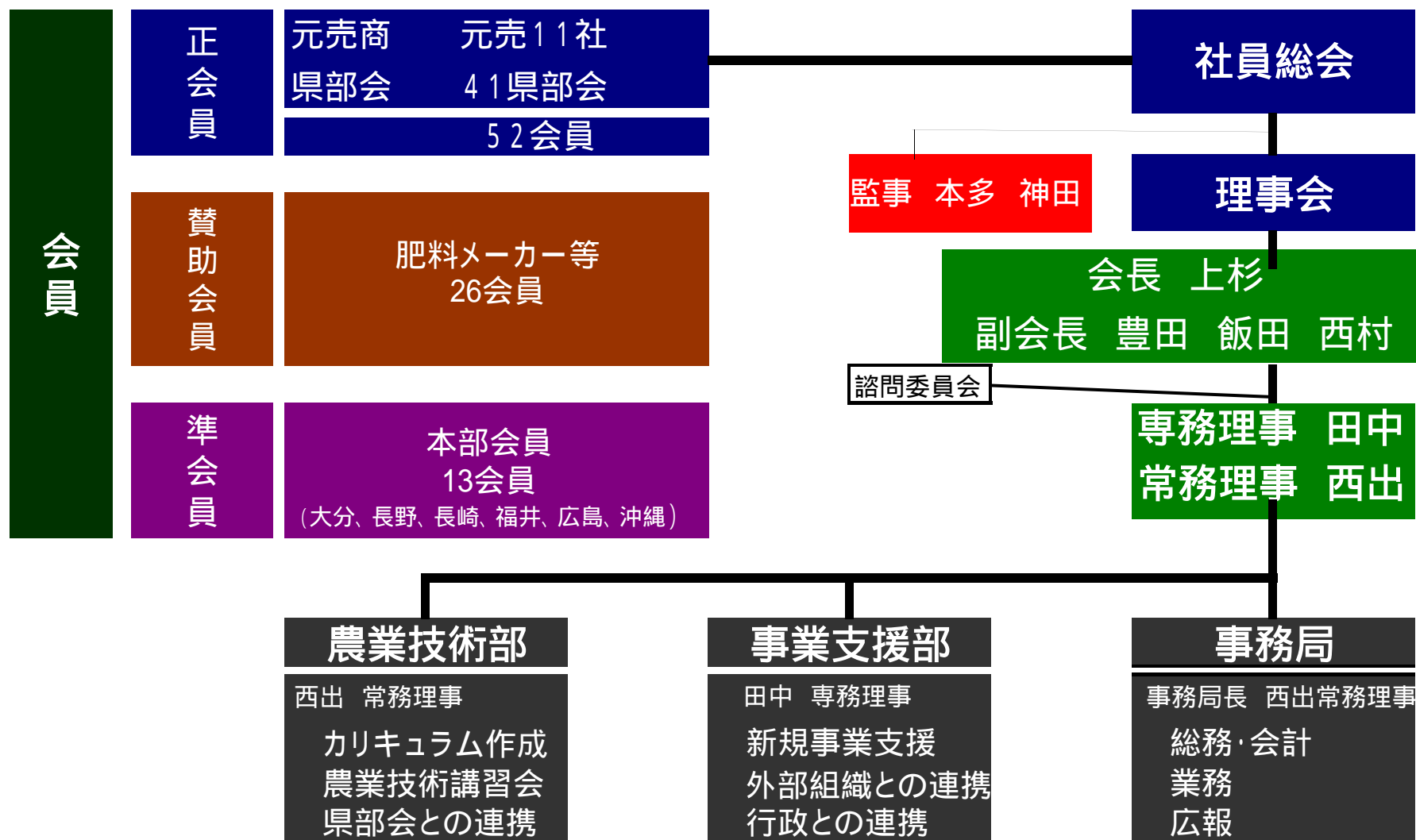
平成23年1月19日

(注) 事業は同日解散した昭和30年設立の任意団体全国肥料商連合会の事業を継承する



県部会員数
1,728事業者
(平成26年9.5現在)

一般社団法人全国肥料商連合会 【組織図】 H26.9.5改定



(社)全肥商連の役員

理事：2カ年 監事：4カ年

(H26.9.5～)

会長	上杉 登 (専任)	
副会長	西村 聰一 (三井物産)	豊田 富士雄 (静岡・豊田肥料)
	飯田 進作 (北海道・日の丸産業社)	
専務理事	田中 和夫 (専任)	
常務理事	西出 邦雄 (専任)	
理事	西谷 貴彦 (三菱商事)	櫻田 健一郎 (サンアグロ)
	小嶋 正八郎 (山形・小嶋商事)	五十嵐 康之 (新潟・ネイグル新潟)
	加藤 眞八 (三重・カネ八商店)	野矢 善章 (滋賀・野矢商店)
	板谷 一広 (岡山・日植アグリ)	児藤 雅俊 (熊本・児藤商店)
監事	本多 浩爾 (東京・奥村商事)	神田 浩一 (昭光通商)

- 理事会
- ・社員総会日時・場所・議事の決定
 - ・規則の制定・変更・廃止
 - ・理事職務の執行の監督
 - ・会長、副会長、専務理事、常務理事の選定・解職
 - ・理事選任 社員総会

(社)全肥商連の主な活動

情報発信 (HP,メルマガ)

行政、農業、肥料、食品流通等関連情報等

研修事業

1. 全国研修会 (農林水産省後援 年1回開催)
 - ・ 経営者向けセミナー
 - ・ 50周年記念大会 (平成26年7月3/4日、仙台)
2. 施肥技術講習会 (農林水産省後援)
 - ・ 施肥技術マイスター認定者(1,071名、H26.7.31現在)
 - ・ 環境・資源・健康を考えた「土と施肥の新知识」発行(1万部)

研究

1. 「食の安全・安心」に繋がる協働
2. 「農産物付加価値化」に繋がる協働

連携・交流

1. 41都道府県部会を通して地方行政との連携・調整
2. 農業・地域社会活性化を目的とした交流会

(社)全国肥料商連合会

第12回 施肥技術講習会

日程：平成26年11月12日(水)～13日(木)

場所：東京農業大学 世田谷キャンパス
農大アカデミアセンター 「横井講堂」

著名な先生方による講義

大好評の教材



『環境・資源・健康』
を総合テーマとした
テキスト。

渡辺和彦 先生

元東京農業大学客員教授 農学博士

後藤逸男 先生

東京農業大学教授 農学博士

小川吉雄 先生

鯉淵学園農業栄養専門学校教授 農学博士

六本木和夫 先生

女子栄養大学非常勤講師 農学博士

受講風景



先生達との交流会



主催：(社)全国肥料商連合会 後援：農林水産省・東京農業大学

第12回施肥技術講習会

11月12日(水)

10:15 開講式

10:30 「肥料取締法」の概要

農水省消費安全局

高橋 賢

11:30 「土壌の基礎知識」

東京農業大学教授

後藤 逸男

12:20 昼食

13:10 「土壌診断と土づくり」

同 上

14:10 「植物の必要元素と栄養特性」

元東京農業大学客員教授 渡辺 和彦

15:10 「作物の栄養と作用機作」

同 上

16:10 「作物別特性と施肥法」

女子栄養大学講師

六本木 和夫

17:10 「作物のリアルタイム栄養診断」

同 上

18:30 先生方との意見交換会(有志)

11月13日(木)

09:15 実習「簡易土壌分析機器・放射線測定器」

10:30 「施肥の原理と肥料の種類・特性」 鯉洲学園農業栄養専門学校教授

小川 吉雄

11:30 「施肥の方法」

同 上

12:20 昼食

13:10 検定試験(1)

14:10 休憩

14:30 検定試験(2)

15:40 閉講式

(社)全国肥料商連合会認定
「施肥技術マイスター」の取得には
検定試験合格が必要となります

不明な点は(社)全国肥料商連合会 西出、山田までご連絡ください

TEL:03-3817-8880 Fax:03-3817-8882

施肥技術講習会(第1回～11回)

2014.9.22

	第1回(2011.8)	第2回(2011.11)	第3回(2012.4)	第4回(2012.8)	第5回(2012.11)	第6回(2013.5)	第7回(2013.8)	第8回(2013.11)	第9回(2013.11)	第10回(2014.5)	第11回(2014.8)	第1～11回合計	
開催地	東京	大阪	熊本	盛岡	名古屋	東京	札幌	新潟	岡山	都城	静岡		
受講者数	102	144	103	127	118	111	166	115 (14)	111(23)	73(6)	129(4)	1,299(47)	
受験者比率	70 69%	111 77%	71 69%	95 75%	61 52%	87 78%	92 55%	51 55%	67 60%	60 82%	52 40%	817 64%	
試験合格者 合格率	64 91%	106 95%	65 92%	92 97%	61 100%	86 99%	89 97%	48 97%	58 86%	52 87%	49 94%	770 61%	
平均点 (100点満点)	74	68	67	71	73	69	66	66	67	64	75	760 69	
施肥指導員 資格者	31	33	32	32	55	24	74	50	21	13	77	442	
施肥技術マイスター 登録者/認定率	95 93%	139 97%	97 98%	124 98%	116 98%	108 97%	157 95%	100 (3)	87%82(5)	74%54(2)	74%	122 95% 1,194 (10)	92%

* ()内は普及指導員数

* 第11回は登録中ゆえ、推定登録者数。

【今後の開催予定】

第12回 2014年 11月12日(水)～13日(木) 東京都・東京農業大学
 口第13回 2015年5月中～下旬 東北地区

【目標】 2015年7月末までに「施肥技術マイスター」として1,500名を登録。

【第1～11回合計】

総受講者数：1,299名
 (内普及指導員:47名)
 施肥技術マイスター登録者：1,194名
 (都道府県部会登録者：1,081名(91%))

講義内容の感想(普及指導員アンケートより)

渡辺先生:植物の必須元素と人体の健康に対する栄養特性との関係は、これまでにない視点で刺激的。長年硝酸態Nが有害と言われてきた事が覆える事、Mgが根肥であることは新たな知見。

後藤先生:耕地の多くがリン酸過剰になっており病害虫発生の要因となっている事は、今後の活動のヒントになった。

小川先生:物質循環を意識した、地域にやさしい農業の実践に役立つ。

六本木先生:リアルタイム栄養診断が印象に残り、実践に生かしたい。

- ・従来堆肥成分について意識していなかったが、今後投入量に応じた基肥の減肥を真剣に考えなければならないと反省。
- ・今後も同様の研修会が開催される際も、普及指導員にも受講の門戸を広げて頂けると幸いです。(注: 門戸は広げているが、県費の予算が取れず受講できないとの県職担当者の声も多い)
- ・土壌・肥料について、1から勉強しなおす良い機会を有難うございました。
- ・大学で土壌を専攻していなかったが、基本をしっかり学べて良かった。
- ・どの講義も盛りだくさんであり、日数が増えても良いのももう少し時間をじっくり掛けて貰いたい。
- ・講師の先生方や参加者との意見交換会は、最先端の情報や考え方、思いを知ることが出来た。

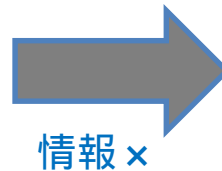
協同農業普及事業との連携

都道府県

ガイドラインの決定

行政・試験研究機関

- 農業再生協議会
- 野菜・果樹生産部会



(社)全肥商連

全国会員資質と技術力の底上げ

- ・生産資材は消費財ではない
(技術指導力とknow-howが不可欠)



○収量と品質両面を追求

コスト低減と生産者の収益UP

○地域密着型の技術と信頼

機能性農産物・次世代継承

全農県本部・JA農協

『(社)全肥商連』と『施肥技術マイスター』は、地域生産現場で普及指導・コーディネーターとして、大きな役割を担う選択肢の1つです。